

川崎市認定保育園協議会会員の皆様へ

平成22年12月13日、川崎市役所本庁舎にて、会議（質疑）を行いました。
 今回は認定保育園に対する川崎市の真意を問う重要な会議でした。
 保育緊急5カ年計画を見直した新保育計画素案においても、認定保育園の役割は一切なく、『事業検討』と記されているのみでした。
 これは、認定保育園経営者に危機感・不安感・不信感を抱かせる事につきません。
 素案に携わった市・職員の真意は不明ですが、市のトップ、市議会議員に認定保育園の地域における実績また待機児童削減への実績等を理解をいただく事が、今回の会議の本筋です。
 本年11月に行った川崎市認定保育園フェスティバルが好評であった事、市長の言葉を掲載した冊子は、市の上級職者や市議等に認定保育園を知らしめる事が出来た、出来るものと思っています。
 協議会では、今後も川崎市認定保育園が重要な存在である事を訴え続けてまいります。
 それには、認定保育園が協力し合う事が重要且つ大切です。
 川崎市認定保育園協議会会員の皆様、手を取り合って認定保育園を盛り上げて参りましょう！

※ 皆様からお預かりした年会費や冊子の負担金についての使用について、不正使用は一切ございません。総会時に会計報告を行います。

(本間)

川崎市訪問会議 議事録

1. 日時	平成 22 年 12 月 13 日 (月) 11 時 30 分 ~ 12 時 00 分
2. 場所	川崎市役所 本庁舎
3. 出席者	高橋(元会長)・岡本・品川・須田・原・原信彦・藤田・堀之内・森・森田・本間 川崎市議会議員 菅原氏・川崎市副市長 砂田氏・子育て支援センター部長 岡本氏
議題	川崎市は認定保育園を、どのような位置づけを考えているのか？
『事業検討』	新・保育基本計画素案に記載されている平成23年度事業実施予定において、おなかま保育室(345人)及びかわさき保育室(320人)の増員予定に対し、認定保育園は『事業検討』と記載されているのみ。『事業検討』の意味は？ <input type="checkbox"/> 言葉の表現が適切ではなかった。素案について再検討を図る。 【弁：岡本氏】
定員削減	(例) 定員50名の園において、認定対象児童数は30名。残りの20名は認定とは扱われていない。(その他、年齢制限をされている園もある) 認定保育園と認めているのに、在園者全員が認定扱いになっていない。園によって規制され、その規制も様々である。 <input type="checkbox"/> 予算上の関係による措置。再検討を図る。 【弁：岡本氏】
懇談会の実施	以前よりの取り決めである、保育課との懇談会が未実施である。 <input type="checkbox"/> 上記の疑問点を含め、市にとって不審を持たれる事は良くない。諸問題等解決には意見交換が必要。場を設ける。 【弁：砂田氏】
保育会の優遇	川崎市は保育会のみ予算等、優遇していると思われる。 <input type="checkbox"/> 以前には、そのような事があったと思うが、近年は保育会のみ優遇している事はない。 【弁：砂田氏】
国家予算	待機児童解消に向け認可外施設の利用を考慮。それに伴い、国家予算を投入し支援すると言っているが？ <input type="checkbox"/> こども手当等も含め考慮・検討中。 【弁：砂田氏】
事務所費	認定保育園協議会の活動拠点をもちたいので、家賃支援をお願いしたい。 <input type="checkbox"/> 考慮する。 【弁：砂田氏】

No. 2212131

川崎市訪問を終えての感想

今回、30分間と短時間の質疑でしたが、高橋氏が近年における認定保育園の主問題点をまとめ、要領良く質疑をしていただいた事、また、市議会議員の菅原氏の同席・発言により内容が充実した質疑であったと思われまます。

現在における不安定・低迷している経済状況において、認定保育園の存続のためには政治力が不可欠であると参加役員、全員の一致した意見・感想でした。今後、議員等、政治力のある方の後方支援及び認定保育園の宣伝・アピール(軽視されがちなため)が不可欠であると痛感致しました。

以上